

## 令和元年度「町長と語る会」概要

日 時	令和元年7月25日（木）午後7時00分～午後8時40分
場 所	下諏訪総合文化センター 小ホール
テーマ	「いきいきと活躍して、人生を輝かせ続けるまちづくり」
パネリスト	下諏訪観光案内所 所長 小松 直人さん 伏見屋邸友の会 会長 嶋田 十三男さん 下諏訪町連合婦人会 会長 高木 萬知江さん 生ごみリサイクル推進委員会 会長 塚原 弘巳さん

### （パネリスト）

- ・観光案内所には、観光客以外にも大勢の方に足を運んでいただいています。隣の「街かど博物館」も、くつろいでいただける場所です。駅の中に観光案内所があるのは、県内でも珍しい立地条件だと思います。それを活かしながら案内をしています。
- ・観光客の一番の目的は諏訪大社ですが、ほかにも宿場や中山道など、皆さんがそれぞれテーマを持って来られます。拓本を取らせていただきたい、水月園の桜がとても綺麗でした、といった話を聞きます。町の中には歴史、文化がたくさんありますので、それを説明しながら対応しています。
- ・下諏訪町の各施設では、嗜好を凝らしながら観光客に来ていただく、ということをやっています。これだけ歴史、文化がありますから、各施設でこれまで以上に工夫を凝らして、お客さんに来ていただくために取り組んでいただきたいと思います。
- ・2005年にシルバーボランティア「子どもを見守る会」を始めましたが、どんどん人が減っていく中で、新聞社の方からアドバイスをいただき、学校へ行って子どもと対面式をやりました。何年かやっているうちに、学校から対面式をやってください、という話をいただいて、皆さんから必要とされる存在にならなければいけないと思いました。ボランティアをやることによって、自分達の健康であるとか、色々と得るものがあると思っています。
- ・子どもがいつ下校して、どう通学路を歩くか調べて、情報誌を作って会員に配布しました。何かやらないと常に下降線になり、会員が減ってしまいます。
- ・婦人会は74年の歴史があり、あらゆる女性団体のルーツとなった団体です。人口減少や高齢化の波に洗われて苦しい面もありますが、元々の意義を考えながら継続に努めています。一番の柱は福祉、学習、親睦ですが、社会教育団体としての立場があり、地域や行政への協力が大きな仕事です。それを大変と思わずに、積極的に協力しようと考えています。悩みはありますが、仲間を支えられて活動を継続しています。
- ・社会全体が人口減少や個人主義など、下り坂のような状態の中で、自分達の考えなどを皆さんに理解してもらうことが難しいと感じています。徹夜して事業をやるとか、体を動かしてやることは、自分が一生懸命やればできることですが、賛同して一緒にってもらうことは難しい。仲間もいるので、何でも辞めてしまうのではなく、いい方向へ持っていきたいと思っています。
- ・下諏訪町に住んでいれば、町の中で誰かの協力を得て生かされている、仕事も大事けれども、人生の幅を持つために地域の活動に加わり、町に恩返しができるようなことに携わったらどうか、と言われ、その頃に区の衛生自治会の役員になり、町の衛生自治会連合に加わって、不法投棄の監視員などを経て、現在、生ごみリサイクル推進委員会の

活動に携わっています。

- ・生ごみリサイクルには、約1,600世帯の皆さんが参加しています。生ごみは臭い、分別が面倒など、難しい面がありますが、分別後の燃えるごみは、ゴミステーションまで小指1本で運べます。一般の家庭の燃えるごみに含まれる生ごみは約40%で、その75%が水分です。そういったものが燃やされると燃料も使います。役場の住民環境課に申し込めば、すぐに参加できますので、ぜひご参加いただきたいと思います。

(町長)

- ・私が最初に始めた事業が生ごみリサイクル事業でした。1,600世帯の皆さんが分別収集に協力いただいているのは、ほかの市町村にはない例だと思っています。それだけ意識が高い町だと思っています。
- ・生ごみの分別をすることによって、ごみ出しが楽になる部分もありますから、そういったこともお伝えしていければと思います。

(パネリスト)

- ・今井邦子に関するものは、町の文化遺産だと思います。短歌の底辺や子どもへの広がりについて、学校を回って、そういうことを広めていけたらいいと考えています。

(町長)

- ・今回の邦子忌に合わせて短歌を募集しました。島木赤彦も有名な方で、子ども達に童謡を募集しています。何かテーマを決めて募集するのも面白いかもしれません。検討させていただければと思います。

(教育長)

- ・子どもの思いを発信する手段として、俳句や短歌、標語など、色々な方法があると思います。学習の中で必要に応じて、勉強させていただくといいと思います。

(パネリスト)

- ・町を歩いたり、歴史や文化財を勉強した「あるこうかい」の活動が役に立って、伏見屋邸をスタートしたときから町の案内をすることができました。下諏訪町に初めて来た方に聞いてみると、こんなに歴史や文化だとか、色々なことをやっている町も珍しいね、広告宣伝をうまくやった方がいい、と言われることがあります。来てみたらいい町だね、という感想です。御柱や石碑の話も出ますし、歴史に興味を持っている人は、いい町だと思っています。
- ・伏見屋邸の個展もきれいだと言われます。昔の中山道の写真も飾っていますが、中山道を歩いてきた人は、こんなに素晴らしい写真があるんですか、とびっくりします。いいものが展示できればと思っています。

(町長)

- ・伏見屋邸の2階の照明の問題が解決していませんが、検討させていただきたいと思います。

(パネリスト)

- ・チャレンジ事業は、いい事業だと思っています。防災士の推進は下諏訪町が一番だったということで、近隣の市町村から方法を聞かれました。
- ・時代の流れとして、自己主張や個人主義ばかりで、もっと自分にできることを考えて、しなくてはいけないと思っています。自助、共助、公助の中で、自助が一番欠けていると思います。団体の運営についても、批判したり役を嫌がるのではなく、自分にできることをしなくてはいけないと思っています。

(町 長)

- ・ 婦人会の活動は、自助、共助、公助の精神を大切にされて、普段から協力をいただいています。町でも住民が主体的に関わるまちづくりを進めています、その象徴がチャレンジ事業です。
- ・ 防災面での自助、共助、公助という部分では、どうでしょうか。

(パネリスト)

- ・ 災害時に、お隣とのコミュニケーションを含めて、どんな行動を起こしたらいいか、そういった意識を持つ地区が多くなってきました。防災と言うと固くなりがちですが、「防災ネットワークしもすわ」の会長と漫才形式で面白おかしく、啓発活動をしています。お年寄りの皆さんにも真剣に聞いていただいて、笑ったり、質問を受けたりして、張り合いでやっています。
- ・ 災害が起きてから何をしよう、ということでは遅いと思います。そのときにどんな行動を起こして、どんな形でやるべきなのか勉強して、実際に色々な立場で動いてみるのが大事だということで、避難所運営訓練を行っています。

(町 長)

- ・ 安心、安全のまちづくりでは、見守り活動が非常にありがたく、大切なことだと思っています。最近、子どもの声で見守りの広報が流れるようになりました。

(パネリスト)

- ・ あれはいいね、あれは大ヒットだね、という話を聞きます。子どもの見守りは、色々な場所ですぐにできる体制でなければいけないと考えています。色々な人が放送を聞いて、そういう気持ちになっていると思いますが、買い物に行ったときにはワッペンを1つ持って行って、放送が流れたらすぐに着けて、見守り活動ができればいいと思います。町からいただいたワッペンを持っていると、子どもは声を掛けられても対応してくれます。

(町 長)

- ・ ワッペンの在庫がありますので、希望者がいらっしゃいましたらお知らせください。町も広報して、役場に来ていただければ、必要な方にはお渡しできるような形をとりたいと思います。必要があれば、作り直していきたいと思います。

(パネリスト)

- ・ 伏見屋邸では、運転免許を返納して参加できなくなった方もいますが、お客さんと話ができて条件が揃えば、いつまでも現役でできる仕事だと思います。長寿で健康で仕事ができるというのは、町としても自慢できると思います。

(町 長)

- ・ なぜ伏見屋邸をシルバーの皆さんにお願いしたかということ、シルバーフェアで色々な趣味を持っている方達の作品展示を見て、それを常設でできたら、生きがいづくりにつながるという話をしたのが原点だったと思います。そういった活動をされているのは、皆さんが生きがいをそこに表現をしているということですから、嬉しく思います。免許を返納して通えなくなるという点は課題だと思いますので、何か方策がないか研究したいと思います。

(会 場)

- ・ 英語がしゃべれますので、観光客が来たときに対応しなければいけないようでしたら、電話をいただければすぐに行きます。ボランティアで子どもと一緒に遊ぶような機会を作っていただければ、いつでも対応します。
- ・ 認知症や寝たきりにならないように、グループで散歩をしたり、歌を歌ったり、麻雀や

オセロ、マレットゴルフなどの活動をしています。高齢者の活動に対して町から補助金が出ることになり、仲間も喜んでいきます。うまく指導すれば色々な活動ができますから、それを活性化して、老人がもっとコミュニケーションをとって、体を動かすように指導していただきたいと思います。

(町 長)

- ・自分にできることを公で活かしていくのは、生きがいづくりにつながると思います。町の色々な行事に参加していただき、地域の中でも発信していただければ、ありがたいと思います。
- ・高齢者クラブ連合会が解散した中で、単位クラブの活動に補助金を出して、会そのものを存続していただきたい、生きがいづくりを続けていただきたい、という思いがあります。

(パネリスト)

- ・吊るし雛の展示の時期になるとファンの方が伏見屋邸に来てくれますが、新しい吊るし雛を作るのが大変になってきています。年寄りだけではなく、次世代の人達が仲間入りして吊るし雛を作ったり、世代交流ができないかなと思っています。照明を何とかして、2階を吊るし雛の常設展示場にして、中山道の写真は、蔵の1階でやったらどうかと考えています。

(町 長)

- ・色々な人達と交流できる形を伏見屋邸のイベントの中に入れると面白いかもしれません。検討したいと思います。

(会 場)

- ・諏訪湖のヒシは下諏訪町だけの問題ではなく、広域でやらなければいけないと思いますが、町としてどういう形で参加しているかお聞きしたい。

(町 長)

- ・50年代の諏訪湖は、ごみが流れ込んで、富栄養化でアオコが出て、見る影もないくらい汚れていました。下水道が普及したことで、見違えるほど綺麗になったことは事実ですが、水質が浄化されて光合成ができるようになったために、ヒシや藻が育ちやすい環境になってきたとも言えます。そういった植物が窒素やリンを吸って、富栄養化を止めているという学説もありますが、ヒシによって景観が損なわれますし、腐って沈むと富栄養化につながるとも言われています。県では全部を取るのではなく、10分の1を目標に、ヒシ取り船を2台導入して、毎年500トンを目安にヒシの刈り取りをしています。町としてもできることはしていきます。
- ・全国の湖沼で水質が改善しているのは、諏訪湖が唯一です。それだけ昔がひどかった訳ですが、改善とは裏腹に、藻やヒシが増えて、夏場になるとアオコも発生します。課題がいくつかありますが、水質浄化の方向に向かっているのは間違いのないと思います。

(会 場)

- ・外国人の観光客は、何か宣伝を見て下諏訪町に来ているのか、外国人の観光客をもっと呼ぶことを考えているのか、お聞きしたい。

(町 長)

- ・インバウンドの外国人観光客を迎えるのは、以前は旅館の皆さんは、少し敬遠していましたが、今は、だいぶ受け入れるようになっていきます。ゲストハウスができたりして、バックパッカーと呼ばれる方達が訪れていることも事実です。下諏訪には大きな宿泊施設がありませんから、大型バスで来て宿泊するということはありませんが、諏訪のホテル

ルに泊まって、まち歩きを楽しむ方達はいると思います。グループや個人でリュックを背負って来られる外国人の方も増えてきています。

- ・ 下諏訪を訪れるお客さんで、静かな雰囲気観光地が魅力だという方はいらっしゃいます。伏見屋邸には実家に帰ってきたような雰囲気があります。

(パネリスト)

- ・ 伏見屋邸の10万人目のお客さんから、この町は静かで落ち着いて、とてもいい町だというお褒めがありました。そういう方は多いです。冬はこたつでお客さんと話をし、若い人の一人旅も結構見えます。外国人が来たら、古いものを叩いてみたり、肌で感じて、色々なことをやっています。慌てなくても、段々と外国人も来るようになってくると思います。

(パネリスト)

- ・ 案内所にはリピーターが来ます。本当に良かったと感じたから友達を連れて来た、友達が良かったというから来た、というリピーターが結構います。

(会 場)

- ・ 古い建物や観光施設は、このままの状態に置いておく、現状のままでいくという考えですか。

(町 長)

- ・ 下諏訪町の売りは、諏訪大社を中心とした歴史と文化だと思っています。残っているものを大切にしていくことが重要だと思っています。伏見屋邸も江戸時代末の商屋を改修して、そういった施設にしています。御柱を伝えるおんぼしら館「よいさ」や、三協精機のオルゴール館「すわのね」、時計作りができる「今昔館」といった施設がありますので、観光施設はこれでいいのかなと思います。あとは、風情を楽しんでいただく、まち歩きをゆっくりとさせていただくような観光地としていくのがいいと思っています。

(会 場)

- ・ 観光客はスマホで検索します。話題になっているパワースポットやインスタ映えする場所を紹介するような形、検索したときに出てきて、そこへ行ってみたい、という方向の見方もしていただければと思います。

(町 長)

- ・ SNSなどの情報は、観光客が観光客に伝えるということですから、インスタ映えするような場所が皆さんに評価されてSNSに載せていただくのは、観光のPRに大切なことだと思っています。大切なご意見として、そういった視点も観光に活かしたいと思っています。
- ・ 高齢者の皆さんが生きがいを持って地域で活躍できるまちづくりは、非常に大切なことだと思っています。皆さんが思いを持って、まちづくりに協力していただいている、この協働のまちづくりに更に磨きをかけたいと思っています。